

11-18 歳時試験についての比較社会学的考察はどのようにしたらよいか ——タイ・イングランド・日本——

日本女子大学 尾中文哉

1 目的

本報告は、あるトピックについて複数地域を取り上げて社会的に比較考察する方法の提案を、目的とする。これは、質的方法・量的方法をともにふまえ長期的データも統合的に取り扱うプロセス志向的方法論 (Baur et al. 2011; 尾中 2015; Onaka ed. 2019) のひとつといえる。また、11-18 歳時試験というのは、そうした方法の実践に最適なトピックの一つである。

2 方法

本研究では、タイ、イングランド、日本という三つの地域を取り上げ、(1) 比較的社会的な位置取りの似通った新聞を一紙ずつとりあげ、そこでの試験関連記事を 1962 年、1971 年、1980 年、1989 年、1998 年と 9 年おきに収集する。(2) 記事の内容的解釈と社会文化的ネットワーク分析を用いて分析する (Onaka ed. 2019)。社会文化的ネットワーク分析とは、アクター項目と文化項目をともにノードとしてとらえ、かつ一部グラフとして分析する仕方である (尾中 2015)。(3) その結果を基礎としつつ、それぞれの地域で政治家、教員、教育行政官、高校教員、大学教員を対象としたインタビュー調査を実施し、(2) と同様の方法で分析しつつ、最終的な結論を得る、というものである。

3 結果

(1)(2) による分析の結果、まず、上記に関する社会文化的ネットワークは、概ね「試験」コンパウンド、「教育」コンパウンド、「勉強」コンパウンドをもち、それらの関係の変容として描けることがわかった。次に、1962 年から 1998 年にかけての変容として、三つのコンパウンド間の関係が密接になる方向で変化してくるが、内容的にいて、タイとイギリスは既にこの期間に質的保証の議論に達しているのに対し、日本はこの期間にはまだ統一の議論にとどまることがわかった。四つ目に、(3) インタビュー結果の中で、三者の関係が密接で、かつ質的保証まで踏まえるタイプは、教育行政官と経営者にみられる傾向があるということがわかった。

4 結論

以上のような考察を通し、量的方法と質的方法をともにふまえ、かつ長期的データも視野に入れることで、時系列的变化のプロセスと地域間の共通性 / 差異を描きながら行う考察の方法を、提案できることがわかった。このことは、データレベルで比較可能性を担保しつつ、かつ歴史的な考察と現状分析の両者を含みこんだ社会学的考察への道を開くものと考えられる。

文献

Baur, Nina, and Stefanie Ernst. 2011. "Towards a process-oriented methodology: modern social science research methods and Norbert Elias's figurational sociology." *The Sociological Review* 11:117-139. Oxford: Wiley-Blackwell.

Fumiya Onaka(ed.). 2019. *Comparative Sociology of Examinations*. Abingdon: Routledge.

尾中文哉 .2015. 『「進学」の比較社会学—三つのタイ農村の「地域文化」との係わりで』東京:ハーベスト社